調査

埼玉県における産業動向と見通し

産業天気図は、一部に持ち直しの動きもみられるが、回復テンポは鈍い

概況

わが国の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。

聞き取り調査の結果、埼玉県の産業天気図は一部に持ち直しの動きもみられるが、回復テンポは鈍い。1～3月期の天気図は、一般機械、輸送機械、鉄鋼が「小雨」、電気機械、百貨店・スーパーが「曇り」、建設が「薄日」となった。

今後は海外も含めた需要の拡大により、県内経済は改善に向かうとみられるが、足下では感染症の再拡大が懸念されており、不安要素も残る。4～6月期の天気図は、一般機械と輸送機械が「小雨」から「曇り」へ改善し、建設が「薄日」から「曇り」へ悪化する見込みである。

主要産業の動向は、以下の通り。

○**一般機械**の生産は、前年を上回った模様である。先行きについても、前年の水準が低かったこともあり、前年を上回って推移するとみられる。

○**電気機械**の生産は、電子部品・デバイスを中心に持ち直している。先行きは現状程度で推移するとみられる。

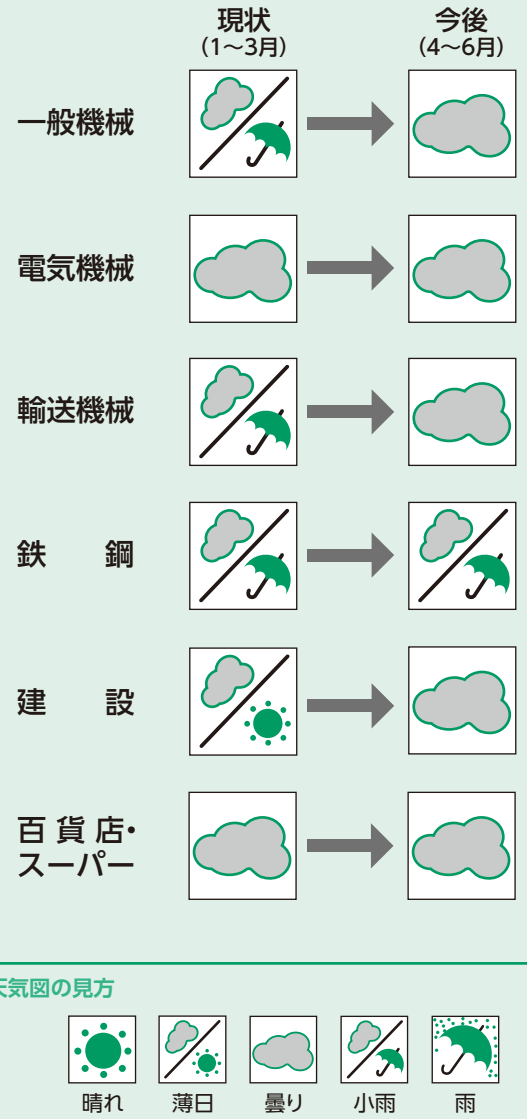
○**輸送機械**の生産は、前年を下回ったとみられる。先行きは、前年水準が低かったこともあり、生産は前年をやや上回ると予想される。

○**鉄鋼**の生産は、前年をわずかに下回ったとみられる。先行きについては、ほぼ前年並みの水準で推移しよう。

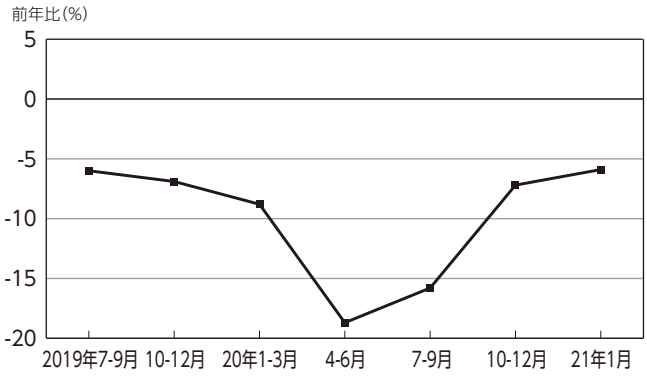
○**建設**は、公共、民間とも手持ちの工事量が多く前年並みで推移した。先行きは、オフィスやサービス関連の需要減が懸念される。

○**百貨店**の売上は減少、**スーパー**の売上は増加が続いた。先行きは百貨店は上向き、スーパーは売上増が一巡するため伸びは低下すると予想される。

産業天気図



●鉱工業生産指数（前年比）の推移（埼玉県）



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

主要産業の動向

(1) 一般機械…前年を上回る

県内の一般機械(汎用機械+生産用機械+業務用機械)の鉱工業生産指数は、新型コロナウイルス感染症が広がり始めた昨年1~3月期に前年比▲22.3%と大きく減少し、1回目の緊急事態宣言が発出された4~6月期には同▲29.6%と更に減少幅が広がった。7~9月期も同▲30.0%と大幅な前年割れが続いたが、10~12月期には半導体製造装置をはじめとする生産用機械が持ち直しに転じたこともあって、同▲6.6%まで減少幅が縮小した。

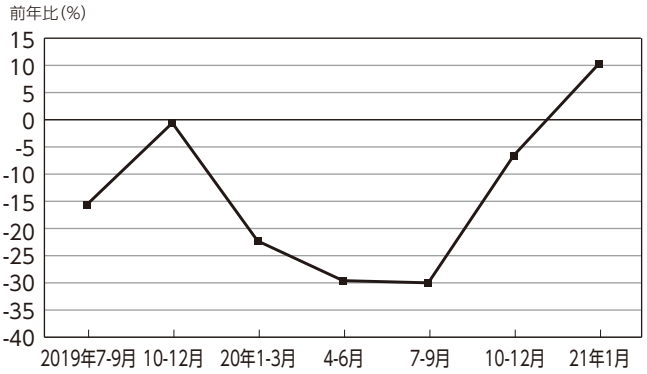
本年1月の生産指数は、生産用機械が高い伸びとなったことに加え、汎用機械の生産も持ち直したことから、前年比+10.3%と前年を上回った。業務用機械の生産は回復が遅れているものの、1~3月期を通してみても、一般機械の生産は前年を上回った模様である。

半導体製造装置の生産は、昨年夏場頃までは大幅に前年を下回っていたが、秋口以降は急速に持ち直してきた。医療用機械器具は、一昨年の後半に生産が落ち込んだ後、振れを伴いながらも持ち直してきたが、依然として力強さに欠ける展開が続いている。歯車は昨年の後半から持ち直しに転じており、年明け以降も比較的底堅く推移している。

空気圧機器は、工作機械向けの出荷回復等を受けて、昨年秋口以降、生産が持ち直しており、足元では前年を大きく上回っている。一方、パチンコは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で遊戯人口が減少しており、昨年の春先に生産が大きく落ち込んだ後、回復が遅れている。

足元では電子機器向けや自動車向けなどを中心に半導体不足の状態が続いており、当面、半導体製造装置の需要は堅調に推移しよう。先行きの一般機械の生産は、前年の水準が低かったこともあって、前年を上回って推移するとみられる。

●一般機械の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」
(注)一般機械=汎用機械+生産用機械+業務用機械

(2) 電気機械…持ち直している

県内の電気機械(電子部品・デバイス+電気機械+情報通信機械)の生産指数は、昨年7~9月期前年比▲4.1%、10~12月期同+5.0%と、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きかった4~6月期の同▲22.9%を底に持ち直しており、本年1~3月期も持ち直しの動きが続いている。電気機械全体では、大きく落ち込んでいた自動車、家電、生産機械等の生産が中国をはじめとして回復していることに伴い、これらに組み込まれている電子部品・デバイス、電気機械の生産も持ち直した。

電子部品・デバイスの生産は、一昨年以降、中国経済の減速から自動車向け、産業機器向けの電子部品の需要が減少したことなどから減少が続いた後、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込んだ。昨年4~6月期を底に徐々に持ち直してきたが、昨年後半より、中国、米国などで自動車の生産が予想を上回るペースで回復したことから、県内でも車向けを中心に生産が好調に推移した。電子部品・デバイスの製造メーカーは、需要が安定し、今後拡大が望める車向けにシフトする動きが続いている。また、生産機械、家電についても、中国をはじめとして動きが出ており、こうした分野への需要も強まっている。

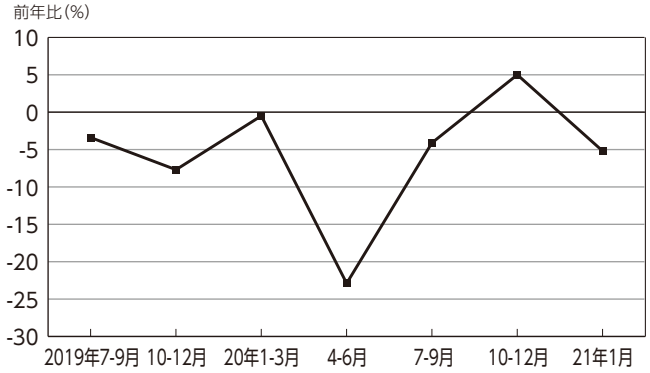
電気機械は県内で生産されるものは、産業向け

がほとんどである。県内で生産される電気機械の多くは、生産機械や情報システムなどに組み込まれる電気関連の部品や装置であり、組み込まれた機械は海外へ輸出されることも多い。新型コロナウイルス感染症の拡大で産業向けの電気機械の需要は、大きく減少していたが、生産機械にやや動きが出ていることや、情報化投資が堅調なことから昨年7～9月期を底に持ち直している。

情報通信機器は、現在県内では業務用通信機器、計測機器および、カーナビ、カーオーディオが中心となっている。自動車などのサプライチェーンを通じた、生産の減少から昨年4～6月期に大きく落ち込んだ後、自動車の生産が回復してきたことなどから持ち直している。

先行きについては、持ち直しの動きが続くとみられる。自動車の電動化や電子制御の進展にともなう電子部品の需要増や、5G関連の基地局向け需要、デジタル化に伴うデータセンター整備、防災、防犯関連の監視カメラや監視システムなどインフラ関連への期待も大きくなっている。

●電気機械全体の生産指数（前年比）の推移（埼玉県）



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」
(注)電気機械全体＝電子部品・デバイス＋電気機械＋情報通信機械

(3) 輸送機械…生産は前年を下回る

乗用車:県内の乗用車販売台数は、昨年4～6月期の前年比▲30.4%を底に減少幅を縮小し、10～12月期には同＋17.2%と消費増税による減少からの反動増もあり二ケタの増加に転じた。しかし、本年1～3月期には同＋2.9%と増加幅は縮小した。車載用半導体不足や2月の福島県沖地震による完成車メーカーの減産の影響によるものとみられる。

生産動向をみると、県内の輸送機械（乗用車・トラック・自動車部品等を含む）の生産指数は、新型コロナウイルスの影響で工場の稼働停止があった、昨年4～6月期の同▲47.2%を底に徐々に減少幅を縮小し、10～12月期は同▲20.1%となった。しかし、本年1月には同▲33.1%と再び減少幅が拡大しており、1～3月期全体でも前年を下回ったとみられ、県内の輸送機械の生産は低迷している。

先行きについては、新型コロナの影響で前年の水準が低かったこともあり、県内の生産は前年をやや上回ると予想される。ただし、半導体大手メーカーの工場火災等に伴う半導体不足による生産への影響が懸念され不透明感は強い。

トラック関連:トラックの生産は、新型コロナウイルスの影響で国内外の景気が急速に悪化したため、輸出向け、国内向けとも昨年4～6月期に大幅に減少した。その後減少幅を縮め、昨年終わりごろには、前年並みにまで戻ってきた模様である。本年1～3月期の生産も前年並みになったとみられるが、これは前年の水準が低かったことも影響している。

新型コロナ以前は、国内のトラック販売は首都圏の再開発、ネット通販の拡大、東京オリンピック関連の需要増に支えられて増加してきたが、オリンピック関連需要は終了し、再開発関連も工事の遅れや計画の延期・中止があるようだ。一方、企業間物流の需要は落ちているが、ネット通販は拡大している。

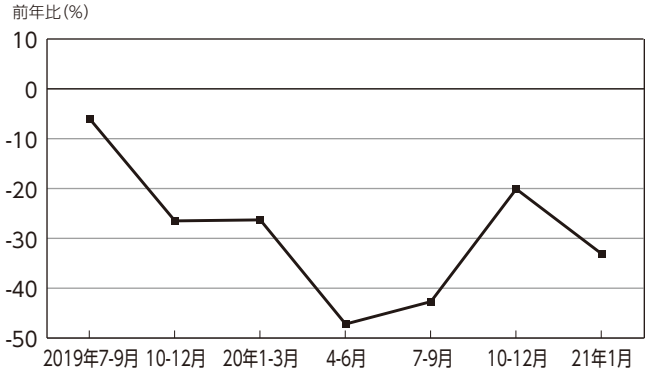
景気は最悪期を脱し上向く方向にある。企業業績も持ち直しており、企業の設備投資にも動きが出てくるとみられる。先行きはトラックの生産も増加方向で推移すると予想される。

部品メーカー:完成車メーカーの生産はトラックが前年並み、乗用車が前年割れとなっていたため、部

品メーカーの生産も前年を下回って推移した模様だ。

先行きについては、完成車メーカーの生産が持ち直しの方向にあることから、部品メーカーの生産も上向くと予想される。

●輸送機械の生産指数（前年比）の推移（埼玉県）



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

(4) 鉄鋼…前年をわずかに下回る

県内の鉄鋼の鉱工業生産指数は、昨年1～3月期に前年比▲1.2%となった後、1回目の緊急事態宣言が発出された4～6月期には同▲11.3%と大きく落ち込んだ。7～9月期に同▲12.4%と更に減少幅が広がったが、10～12月期には同+0.1%と持ち直した。本年1月は同▲1.8%と再び前年を下回っており、1～3月期を通してみても、鉄鋼の生産は前年をわずかに下回ったとみられる。

マンションは、建設コストの増加を受けて価格の上昇が続いてきたことなどから、売れ行きが落ち込んでいる。マンション販売業者の多くは、発売戸数の絞り込みで対応しようとしているものの、一部では値引きを余儀なくされるケースもあり、新規着工には慎重な姿勢をみせている。

新型コロナウイルスの影響で、訪日外国人が激減していることを受けて、ホテルの建設は落ち込んでいる。病院や介護施設などの医療関連施設も、このところやや減少しているが、一方でスマホの5G基地局など通信施設は高い伸びとなっており、物流施設についても引き続き堅調に推移している。引き続き都内では再開発プロジェクトが続いているが、在宅勤務を行う企業が増えたことなどから、このところ都心部のオフィス需要は弱含んでいる。

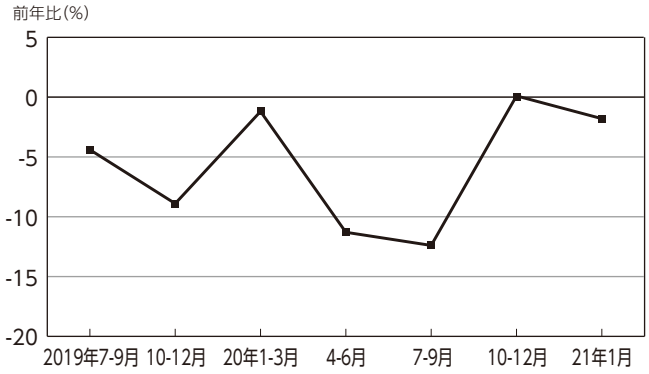
先行きの鋼材の生産は、力強さには欠けるものの、前年の落ち込み幅が大きかったこともあり、ほぼ前年並みの水準で推移しよう。

コスト面では、比較的低い水準で推移してきたスクラップ価格が、昨年末頃から上昇している。鉄鋼生産が増加しているベトナム向けなどを中心に、日本からのスクラップ輸出が伸びていることに加えて、中国がスクラップの輸入制限を緩和したことから、市中在庫が減少し、価格が引き上がっている。鋼材の製品価格とスクラップ価格とのスプレッドが縮小しており、鋼材メーカーの収益は悪化している。

銑鉄鋳物の生産は、1回目の緊急事態宣言が発出された昨年の4月から5月にかけて、前年実績を大幅に割り込んだ。宣言の解除後は徐々に減少幅が縮小してきたが、10～12月期についても、わずかに前年を下回った。

中国の景気回復に伴い、輸出比率の高い工作機械向けが上向いているほか、銅をはじめとする金属の相場上昇を受けて、鉱山用の建設機械向けも受注が増えているようだ。一方、堅調な公共投資の動きを反映して、底堅い動きを続けてきた鋳鉄管は、前年の水準が高くなっていることもあって、足元では若干前年を下回って推移している。

●鉄鋼の生産指数（前年比）の推移（埼玉県）



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

今後も、工作機械向けや建設機械向けを中心に、銑鉄鋳物の生産は持ち直しに向かうものの、水準としては前年並み程度にとどまろう。このところスクラップ価格が上昇しており、収益が圧迫されている。今後、銑鉄についても価格の引き上げが見込まれることから、先行きについても収益は厳しい状況が続くとみられる。

(5) 建設…ほぼ前年並みで推移

公共工事:県内の公共工事請負金額は昨年7~9月期前年比+19.4%、10~12月期同▲15.2%、本年1~3月期同+9.9%と振れはあるものの、好調な推移が続いている。公共工事の発注は順調で、建設業者の受注残は多く、足元の工事量も高水準で安定している。都内の大手業者が引き続き繁忙なため、県内業者の受注状況は価格面を含めて良好である。県内の公共工事は、業者からすると人手の問題もあり、手一杯というところもある。

老朽化したインフラの更新や補修の必要性が高まっており、建物のほか、河川、橋梁、道路なども改修・補修工事が多く、新規の建設案件は少ない。

先行きは、当面堅調に推移するとみられる。自然災害が多くなっており、災害対策や老朽化したインフラの改修などが期待されている。

民間工事:県内の非居住用の建築着工床面積は昨年7~9月期は前年比▲7.6%、10~12月期は同▲34.8%、本年1~3月期は増加となった模様。月毎の振れはあるものの、民間工事は着工ベースで弱含みとなっている。ただ、受注残は相応にあり、工事量はほぼ横ばい。

種類別では建て替え、補修を含めて病院、介護関連などの医療・福祉施設の工事は減少傾向。工場やビルの改修、建て替えなどは、見合わせるところも出ており、このところ減少している。商業関連やサービス関連も着工は手控えられている。物流関連は好調を続けている。全体として新規着工には手控えがみられるが、都内の大手業者の受注残は依然多く、県内の工事は県内業者が請け負っており、受注残は多く工事量は横ばいの状況が続いている。

先行きは、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オフィス、商業、サービス用の需要減が懸念される。

住宅:昨年7~9月期の新設住宅着工戸数は前年比▲4.6%、10~12月期は+0.6%と増加となったが、本年1~3月期は減少となった模様。

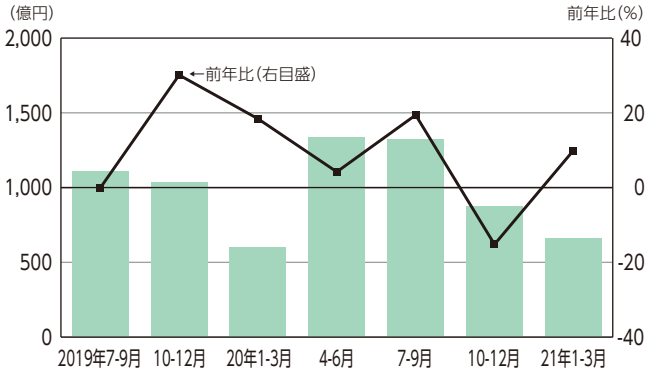
マンションは建設コスト高から、価格が高止まりしており、全体として販売が不調となっていたこともあり、このところ販売戸数は大きく減少している。販売戸数の調整もあり、契約率は若干上向いているものの、販売側の収益面も厳しくなっていることもあり、供給は手控え気味となっている。

戸建の分譲住宅も新型コロナウイルス感染症の影響を懸念し、土地仕入れや新規着工を絞ったことから着工戸数は減少している。販売面は悪くない模様であるが、新規の供給、着工については手控え状態が続いている。

貸家は、空室率は依然高止まりの状況にあり、新規の着工は引き続き手控えられている。

先行きは、マンションは販売の不振に加え好立地の土地の供給が少なくなっていることもあり供給の手控えが続くとみられる。戸建て分譲は郊外の需要が高まる期待もあるが、数としては少なく、着工は慎

●公共工事請負金額(前年比)の推移(埼玉県)



資料:東日本建設業保証㈱

重な姿勢が続く。貸家は、引き続きやや弱含みの見込み。新型コロナウイルス感染症の影響については、所得面の不安が出てくると、購入に慎重な姿勢が広がることが懸念されている。

(6) 百貨店・スーパー…百貨店は減少・スーパーは増加

百貨店:1～3月期の売上は前年を下回ったようだ。昨年4月に発出された1回目の緊急事態宣言以降、百貨店の売上は大きく減少したが、その後、減少幅は縮小方向にあった。今年1月から3月にかけては、緊急事態宣言の再発出があり販売は再び低迷したが、2月に百貨店の閉店に伴うセールで売上が押し上げられたほか、昨年3月の売上が大きく減少していたこともあり、減少幅は小幅にとどまったようだ。

品目別では、主力の衣料品の落ち込みが大きい。外出自粛やテレワークへのシフトなど、新しい服を着るという需要が少なくなっているため外出着が売れていない。アパレル業界ではブランドの廃止、ショップの退店があり売場面積も減っている。

巣ごもり需要の高まりから食料品や家具、リビング関連が比較的好調である。食料品は外食機会が減っていることから内食傾向が続き、値段が高めの豪華な食材の売れ行きが良い。食品関連の物産展も反応が良い。家具やリビング関連では、家の中で快適に過ごしたいという需要から寝具や食器、手芸用品などの趣味の品、ペット用品が売れている。

来店客数は緊急事態宣言の影響から減っているが、感染者数が減少するにつれ、徐々に増えている。

先行き不安から一般の中間層の消費は慎重な動きとなっているが、富裕層による高額消費は堅調である。ラグジュアリーブランドのハンドバッグ、財布、アクセサリー、宝飾・時計、絨毯や絵画に動きがある。株高なども背景にあるとみられる。

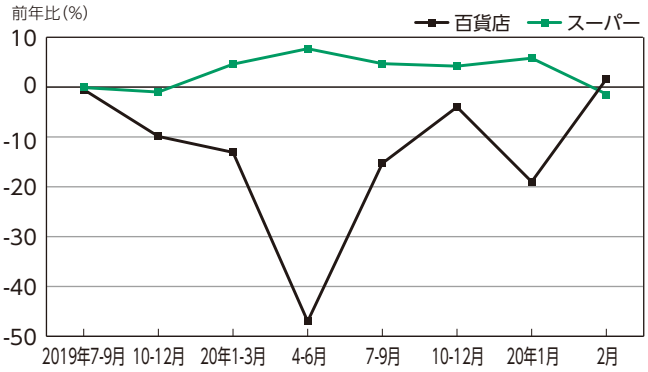
先行きは、緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスのワクチン接種も徐々に進むため、人出も増え消費マインドも高まるという見方が多く、販売は上向くと予想される。

スーパー:新型コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年2月以降、巣ごもり需要から県内スーパーの売上は増加が続いている。1～3月期の売上も前年を上回ったとみられるが、前年の伸びが高かったため増加率は低下したようだ。来店客数は減っているが、感染リスクを抑えるため来店頻度を減らして、一度に多くの商品を購入する消費者が増え、客単価は上がっている。

品目別では、食料品の好調が続いている。自宅での調理を楽しむ傾向が強まり、調味料やお酒、肉、などが売れている。外出・旅行ができないため、その分の支出を上質な食品に回したり、これまで以上に健康を意識した商品が人気となっている。料理に使うキッチン用品・生活雑貨などの住居関連用品の売れ行きもよい。一方、衣料品や靴、化粧品は不振が続いている。

先行きについては、食料品関連は好調、衣料品は低迷というこれまでの傾向は大きく変わらないとみられるが、昨年からの売上増が一巡するため売上の伸びは低下するとみられる。ただし、ワクチンの普及が徐々に進み新型コロナが収まるにつれ、内食から外食や旅行などへ消費の傾向が変わっていくことも予想される。不自由な生活を余儀なくされていたので、その反動も大きく、消費の傾向が変わる可能性があるという声もあった。

●百貨店・スーパー販売額(前年比)の推移(埼玉県、既存店)



資料:経済産業省「商業動態統計」